

2024 年度心理コミュニケーション学科海外文化研修(ベトナム)

報告書

参加人数：3 名 (Y.O./K.N./K.M. 2 年次生)

研修地：ベトナム・ハノイ

研修期間：2025 年 2 月 28 日～3 月 3 日<現地 3 日間>

単位認定：無し

研修目的：

ベトナムにおける社会学的フィールドワーク。市内の文化商業施設、若者にとっての人気スポットなどを文化社会学・メディア論的な視点から現地調査する。そのことを通じて、現地の若者たちの流行や文化的な動向への理解を深める体験的な学びを実践する。具体的には、ハノイ市街を中心とした街歩き（ストリートスナップの作成・発信）を通して現地の人々と交流しながらベトナムの若者ファッションの現状を調査する。また、現地で流行している民族衣装を着用してのストリートファッションも体験する。

研修概要：

事前研修

5 月 9 日(木)、5 月 30 日(木)、7 月 4 日(木) テーマ・内容など企画会議。

7 月 25 日(木) アオザイ試着・撮影会。および追加募集ポスター制作実習。

11 月 18 日(火)、12 月 12 日(木)、12 月 23 日(月) 卒業生現地ガイド依頼、Zoom 打合せ。

2 月 10 日(月) 直前研修。準備の確認等。

研修

2 月 28 日(金) 関西空港出発→ハノイ着

ハンガイ通り街歩きフィールドワーク(アクセサリ、線路沿いカフェなど)

3 月 1 日(土) ホアンキエム湖周辺での民族衣装撮影会

ハノイ旧市街での街歩きストリートスナップ・フィールドワーク

3 月 2 日(日) バッチャン村での焼物ワークショップ体験

バッチャン街歩きストリートスナップ・フィールドワーク

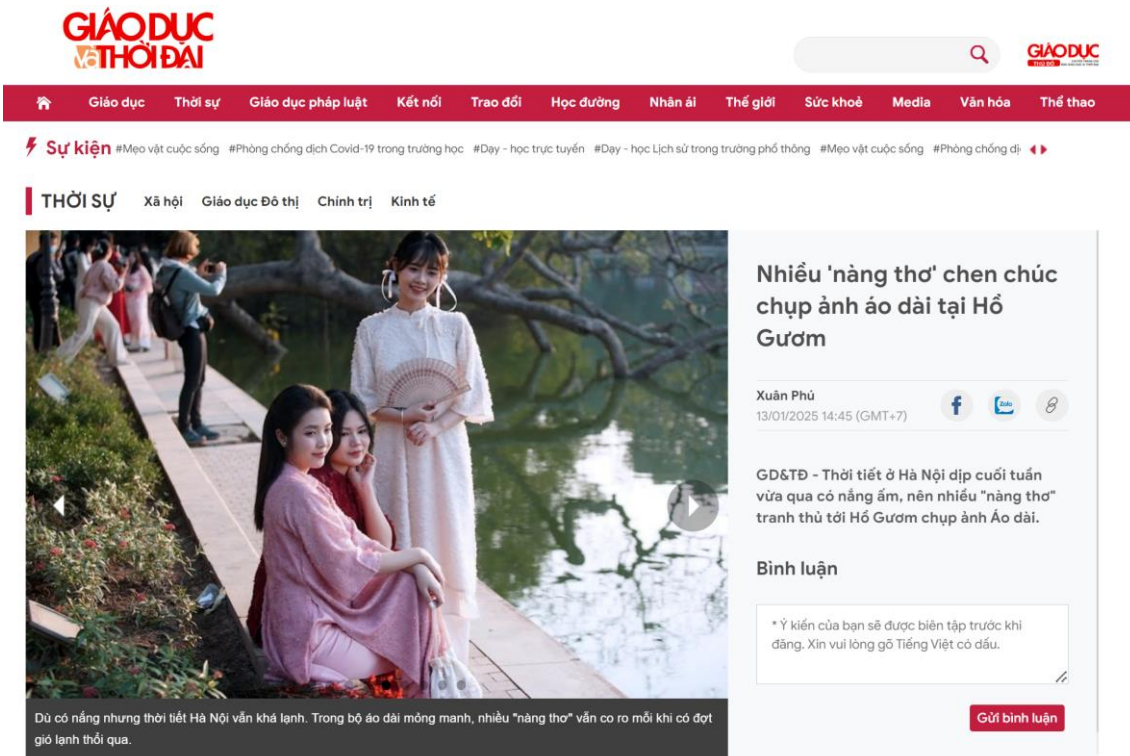
3 月 3 日(月) ハノイ発→関西空港帰着

報告会

4 月 17 日(木) 於セミナーⅡa 合同セミナー(予定。場所等調整中)

■事前研修

■ベトナム伝統衣装についての現地事情



ベトナムでは今、民族衣装を着ることが若者たちのファッションとして流行していることを、ガイド役の卒業生ファン・カン・リンさんから教えていただいた。アオザイは日本でも知られているが、それ以外にもさまざまな服装があるらしい。私たちが伝統衣装を着てハノイの街歩きをすれば、現地の人たちのファッション事情を国際交流しながらフィールドワークできるのではないかと考えた。3日間で三種類の伝統衣装をモデル役のNに着てもらい、その服にふさわしい文化的なスポットで撮影するとともに、街歩きしながらストリートスナップを撮影する形で、交流・観察調査をすることにした。難しいベトナム語の通訳だけはファンさんにお願いするが、私たち自身で現地の人たちとのファッションを通じた交流を深めたい。

■研修目的

- ・コミュニケーション能力の向上
→ベトナム語を知らない在りの国際交流、そしてその模様を情報発信
- ・ベトナムのファッション事情を調査する
→日本のファッションとの類似点と相違点
- ・ベトナムの文化歴史を学ぶ
→伝統衣装を着るのが若者に流行している背景を知る

■アオザイ試着・撮影会(7/25)

ポスター掲示中！ 30週間前

海外文化研修inベトナム
参加者募集ポスター
5号館エレベーター前に掲示中！

心理コミュニケーション学科
海外文化研修
in ベトナム

2025年2月28日～3月3日
参加者募集中！

参加希望の学生は
有田 (warita@oiu.jp)

PSYCOM24VIETNAM



■事前研修による成長や学び、効果

Y. O.	K. N.	K. M.
(コミュ力の向上) Nがモデル、Mがフォトグラファーという役割分担はよい組み合わせだと感じた。ポスターのデザインやInstagramの管理は自分が担当したが、現地では声かけ役もがんばろうと思った。	(伝統衣装の歴史・文化的背景を学ぶ) アオザイという伝統衣装を実際に着てみて、どのような見映えがするのかなど、着こなしを具体的に確かめることができた。	(コミュ力の向上) ポスター作りは追加募集という目的を兼ねてもいたことでやる気が増した。 (現地のファッション事情を知る) 民族衣装体験そのものは観光旅行の定番だが、事前研修で調べるうちに現地の若者の間で流行っていることを知り、興味がわいた。

OIU 心理コミュベトナム研修 2024

<https://www.instagram.com/psycm24vietnam/>

本番では上記 Instagram を通じて、研修の様様をリアルタイムで情報発信した。

■フィールドワークでの民族衣装・撮影場所の案

1. Áo Nhật Bình (アオ・ニャット・ビン)



アオ・ニャット・ビンは阮朝（1802 年～1945 年）の宮廷で女性が着用した伝統的な礼服です。その起源は明朝時代の「飛袍（ヒホウ）」にあり、阮朝の宮廷文化の中で取り入れられ、ベトナム独自の対襟スタイルへと進化しました。特徴的なのは、襟部分が幅広の長方形をしており、前身頃が紐で固定されるデザインです。この胸元の形状から、「日本平（ニャット・ビン）」と名付けられました。この衣装は、ベトナムの伝統美を象徴しています。

ハノイでは、アオ・ニャット・ビンが直接関連付けられる特定の建築物はありませんが、阮朝と深いつながりを持ついくつかの場所が挙げられます。

タンロン遺跡（ホアンタイン・タンロン）



タンロン遺跡はハノイの象徴的な歴史遺産で、李朝から始まり、阮朝時代にも改修され利用されました。この場所はベトナムの千年の歴史を感じることができる遺跡であり、宮廷文化や儀礼に触れることができます。

国立歴史博物館



この博物館には、阮朝時代の多くの遺物が展示されており、日本平服をはじめとする宮廷衣装もその一部です。訪問者は、ベトナムの歴史や文化、伝統衣装の深い背景について学ぶことができます。

2. Áo giao lĩnh (アオ・ジャオ・リン)



アオ・ジャオ・リン (Áo giao lĩnh) は、ベトナムの伝統的な衣装で、李朝（1009 年～1225 年）や陳朝（1225 年～1400 年）など、中世ベトナムの王朝時代に主に使用されていました。この衣装は中国文化の影響を受けつつも、ベトナム独自の特徴を持ち、上衣の襟が交差する「交領（ジャオ・リン）」というデザインが特徴です。特に、儀式や宮廷での正式な場面で用いられ、歴史的に重要な位置を占めています。

アオ・ジャオ・リンと時代的、文化的なつながりがある歴史的建築は文廟（ヴァンミエウ）が挙げられます。文廟は 1070 年に建てられた孔子を祀る寺院で、李朝時代の学問の中心地でもありました。ここでは宮廷儀式や官吏の試験が行われており、アオ・ジャオ・リンが着用される場面が多かったとされています。この場所は、当時の知識人や官吏が身に着けた伝統衣装の歴史的背景を学ぶのに最適と言われます。

3. Áo Tắc (アオ・タック)



アオ・タック (Áo tấc) は、主に後黎朝 (1428 年～1789 年) および阮朝 (1802 年～1945 年) の時代に広く用いられたベトナムの伝統衣装です。この衣装は、袖丈が広く、長い裾が特徴であり、特に礼服として使用されました。

「タック」は「折る」という意味であり、衣装の裾が折り重なったデザインに由来しています。アオ・タックは宮廷文化や儀式において、官吏や知識人が着用する衣装として重要な役割を果たしていました。

アオ・ジャオ・リンと時代的、文化的なつながりがある歴史的建築は文廟（ヴァンミエウ）とタンロン遺跡（ホアンタイン・タンロン）です。



■研修実施報告

2月28日(金)



ホテルにチェックイン後、夕方から夜にかけて、ハンガイ通りで街歩きフル土ワークを行った。3/2 にワークショップを予定しているバッチャン焼の「Authentic Bát Tràng」というショップがあったので見学した。日本の焼物がどちらかというと侘び寂び的な渋い感じであるのに対し、かわいい感じの焼物である印象を受けた。

夕食後、トレインストリートを見学した。実際の列車が走る線路の上や両脇に露店が展開し、列車が来るときだけ素早くどいてスレスレにやりすごす、とい店街である。私たちも最初のうちは線路

の上でポーズを取りそれを写真に撮ったりしていたが、そばで別の日本人グループも撮っていたので、「シャッター押ししましょうか」と話しかけてみたところ、大変喜んでもらえて交流ができた。卒業旅行で来ている女子高生4人のグループだった。高校生でプライベートにベトナムに来るというのはすごいと思った。その一方で、こういうちょっとした会話からインタビュー調査のきっかけが得られることを認識できた。



3月1日

ニャットビンをNさんに着てもらい、有名なタンロン遺跡で撮影会を行った。プロのカメラマンさんに依頼してその着こなしを撮影してもらい記録するのが一つの目的である。一方で、最近ベトナムでは伝統的な民族衣装を着ることが流行しており、タンロン遺跡はそのスポットにもなっていることから、ニャットビンを紹介して国際交流ができるのではと考えた。実際、土曜日だったこともあり多くの人が訪れており、Nさんのニャットビン姿を見ると、修学旅行の韓国人修学旅行生たちなどは手を振って近づいてきた。それに手応えをつかんだ私たちは、Nさんを撮影しようとする観光客たちに話しかけて交流を試みた。この方法はうまく行き、3組の人々にインタビューできた。



午後、アオタックに衣装を着替えて、ハノイ大聖堂前でフィールドワークを行った。アオザイを着て記念撮影をされている女性がおられたので話しかけ、交流した。彼女から近年の伝統的民族衣装のブームについて、詳細な事情を聞くことができた。



3月2日

午前にはホアンキエム湖の周辺で前日に引き続きフィールドワークを行なった。この日は小雨の間を縫っての活動となり難航したが、チョコレートショップの前で自撮りをしている女性5人組にインタビューし、最近のベトナムのファッションの動向について詳しい話を聞きながら交流することができた。



この日の午後は、ハノイ市外にあるバッチャン村を訪問し、バッチャン焼のワークショップに参加した。工房が立ち並ぶ中で関係者からレクチャーを受けるとともに、モザイクアート作成のワークショップに参加した。陶芸＝物作りの体験には時間が足りなかったこともあるが、陶器の破壊を前提にしたモザイクが一つのジャンルを作っており、それはかわいいパステルカラーが特徴のバッチャン焼ならではのものであることを知ることができた。



■研修による成長や学び、効果

Y. O.	K. N.	K. M.
(コミュカの向上) 最初のうちは声をかけることに緊張していましたが、何組か声かけているうちに、慣れてきて声をかけられるようになったほか、通訳無しでも多少の会話ができるようになりました。 (伝統衣装の歴史・文化的背景を学ぶ) 伝統衣装の着装はベトナム人の自国への愛国心からきており、日本の着物文化とは少し異なる背景があることを知った。しかし、実際に見てみると、それほど伝統衣装を着装している人は少なく、時期的に旧正月が過ぎたところだったからではないだろうか。 (現地のファッション事情を知る) 伝統衣装を着用している人は、アオザイを着ている人が多いように感じた。 また、声をかけてインタビューした方は韓国から帰国したところで、韓国でお仕事をされている方だったが、よく着る服は韓国で購入したもので、韓国のブランドは基本的に綺麗なデザインが多いと話していた。	(伝統衣装の歴史・文化的背景を学ぶ) 私が着用した衣装は皇族が着ていたものから庶民が来ていたものなど様々だった。撮影場所はそれぞれの衣装にあったスポットで行い、歴史・文化的背景について深く学ぶことができた。 また、アオザイ以外の珍しい衣装を選んだことで、多くの人の目に留まり、伝統衣装から生まれたコミュニケーションが多かったように感じる。 (現代ベトナムのファッション事情) インタビュー調査した方々一人一人の今日のファッションのポイントを聞いた。ベトナムの中でも南や北など場所によって個性があるようだ。服は店頭よりネットで買うことが多いらしい。 自分の着こなしを写真に撮りインスタなどにあげる一方で、日本のチェキを持っておられた。ベトナムでもチェキで写真を撮るのは流行っているとのこと。	(コミュカの向上) 伝統衣装の撮影会を通じて、カメラマンのファン・リンさんから撮影の技術やカメラについての知識を教わることができた。撮り方を少し工夫するだけで、また性能の良い機材を使うことで、写真が全く違うものになることを知った。できることならベトナムをもう一度訪問し、ファン・リンさんからもっと教えていただきたいという思いを強くした。 そして、私の手でモデルのNさんをもっと素敵に撮ってみたいと思った。インスタグラムを通じての情報発信を介して、ホームページに記念撮影的な写真をあげるのではなく、もっと人々の目を惹きつける工夫をしてみたいと感じた。

■今後の予定

4月17日に帰国後報告会が予定されているので、そこでの発表原稿を加えたものを正式な研修報告書としたい。それまでは、インスタグラムを更新し情報発信していくつもりである。

OIU心理コミュベトナム研修2024

<https://www.instagram.com/psycm24vietnam/>

■謝辞

このたびの学科海外研修は、奥田政三教育・研究基金からの助成を受けています。理事長 奥田吾朗様、学長 宮本郁夫様、副学長・国際交流センター長 伊藤省二様をはじめ、ご支援くださった全ての方々にお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

(2025 年 3 月 3 日)

以上